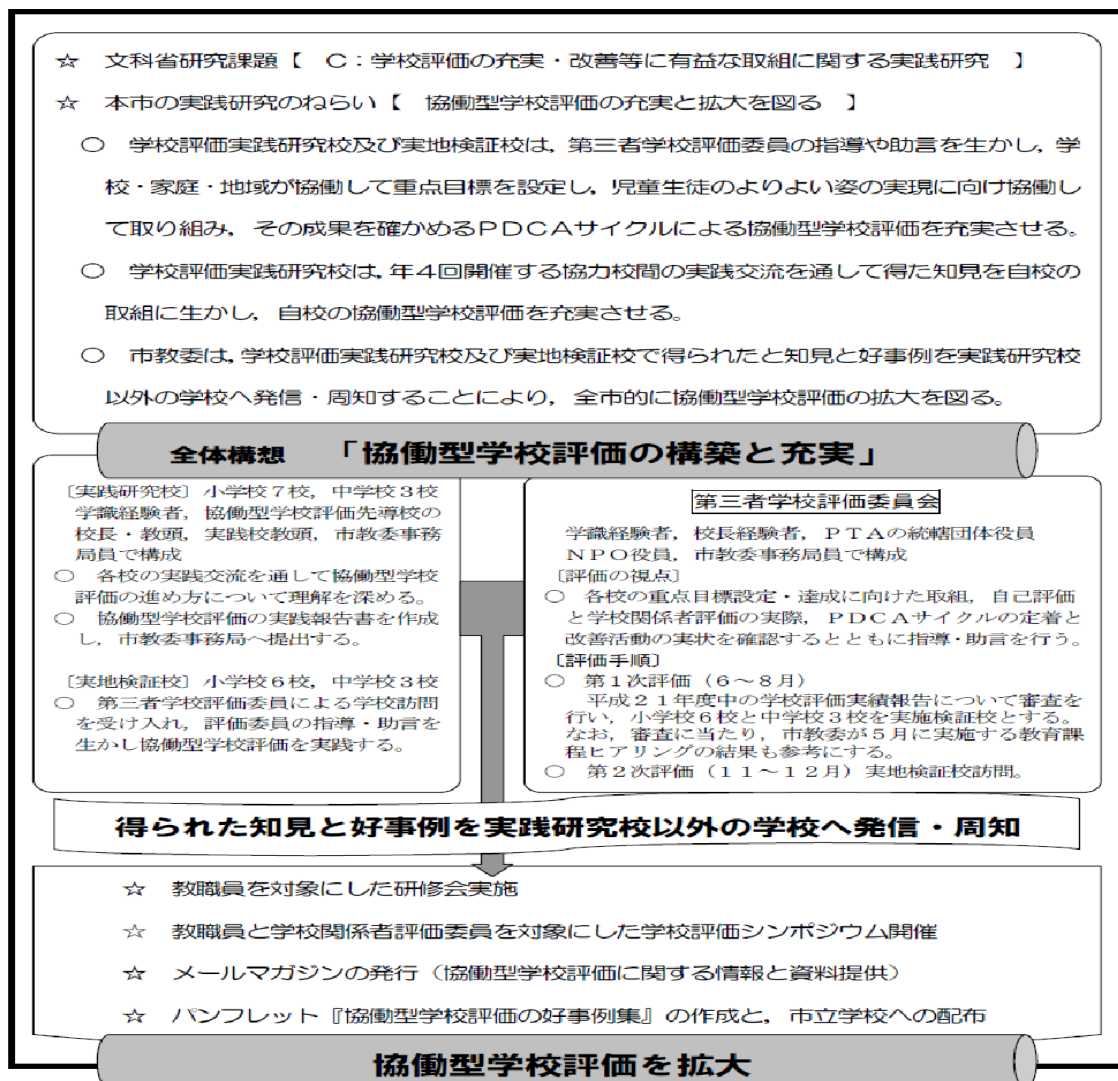


学校評価の充実・改善等に有益な取組についての実践研究

1. 事業の実施報告

(1) 実践研究のねらい：協働型学校評価の充実と拡大を図る。

- 学校評価実践研究校及び実地検証校は、第三者学校評価委員の指導や助言を生かし、学校・家庭・地域が協働して重点目標を設定し、児童生徒のよりよい姿の実現に向け協働して取り組み、その成果を確かめるPDCAサイクルによる協働型学校評価を充実させる。
- 学校評価実践研究校は、年4回開催する研究校間の実践交流を通して得た知見を自校の取組に生かし、自校の協働型学校評価を充実させる。
- 市教委は、学校評価実践研究校及び実地検証校で得られた知見と好事例を他校へ発信・周知することにより、全市的に協働型学校評価の拡大を図る。



(2) 実践研究の実施状況

① 協働型学校評価の構築と充実のための取組状況

ア 第三者学校評価委員による実地検証

[評価委員の構成]

学識経験者 2 名、校長経験者 1 名、PTA 統轄団体役員 2 名、NPO 役員 2 名 計 7 名

[実地検証に係る学校評価委員会]

	日時	内容	出席者
1	9月8日(水) 14:00~17:00	○ 説明「協働型学校評価の現状」事務局 ○ 協議「協働型学校評価の方向性」	・学識経験者 2、委員 5 ・事務局 5
2	10月6日(水) 14:00~17:00	○ 説明「実地検証の日程」事務局 ○ 協議「協働型学校評価実地検証の概要」	・学識経験者 1、委員 5 ・事務局 1
3	1月27日(木) 14:00~17:00	○ 意見交換「実地検証を通して見えた好事例と課題」 ○ 意見交換「協働型学校評価の充実に向けて」	・学識経験者 2、委員 5 ・事務局 2

[実施期日及び実地検証校]

	期日	学校名	訪問者
1	10月21日	沖野東小学校	学識経験者 1、校長経験者 1、PTA 統轄団体役員 1、市教委事務局員 1
2	11月10日	住吉台中学校	PTA 統轄団体役員 1、NPO 役員 1、市教委事務局員 1
3	11月18日	実沢小学校	PTA 統轄団体役員 1、NPO 役員 1、市教委事務局員 1
4	11月19日	芦口小学校	学識経験者 1、NPO 役員 1、市教委事務局員 1
5	11月24日	中田中学校	校長経験者 1、PTA 統轄団体役員 1、市教委事務局員 1
6	12月7日	南中山中学校	学識経験者 1、PTA 統轄団体役員 1、市教委事務局員 1
7	12月8日	四郎丸小学校	校長経験者 1、PTA 統轄団体役員 1、NPO 役員 1、市教委事務局員 1
8	12月9日	台原小学校	PTA 統轄団体役員 1、NPO 役員 1、市教委事務局員 3
9	12月10日	上愛子小学校	学識経験者 1、PTA 統轄団体役員 1、市教委事務局員 1

[実地検証の視点]

実地検証校の重点目標設定・達成に向けた取組や、自己評価と学校関係者評価の実際、P D C A サイクルの定着と改善活動の実状を確認するとともに、指導・助言を行った。

[ながれ]

時刻	内容
8:20	訪問者打合せ、授業参観
9:40	インタビューⅠ ① 校長 ② 校長・教頭
12:30	児童生徒との会食・対話、教職員との対話
14:00	インタビューⅡ ① 保護者代表・学校関係者評価委員・教頭 ② 教職員
16:00	訪問者打合せ
16:30	退出

[実地検証のまとめ]

○ 実地検証校及び当該校の学校関係者評価委員に対する協働型学校評価充実のためのコメントを文書として送付した(12月下旬~1月上旬)。

- 実地検証で得られた知見を実践研究校に提供し、当該校の取組に反映させた（12月～1月）。
 - 実地検証で得られた知見を、『平成23年度協働型学校評価ガイドライン』にトピックスとして掲載し、協働型学校評価充実に向けたワンポイントアドバイスを市立学校に発出した（3月）。
- イ 学校評価実践研究校による実践交流（学校評価実践研究委員会を年4回開催）
- 〔 研究委員の構成 〕 学識経験者2名、校長1名、小学校教頭7名、中学校教頭3名。

〔 実施日時及び内容 〕

	日時	内容	参加者
1	7月30日（金） 14:00～17:00	○ 講義「協働型学校評価の進め方」 講師：市教委学校教育部長 菅野 茂 ○ 各校の取組発表 ○ 学識経験者から指導助言	・学識経験者2 ・校長1、教頭10 ・事務局3
2	12月15日（水） 14:00～17:00	○ 各校の取組発表 ○ 学識経験者の指導助言のもと好事例選定	・学識経験者2 ・校長1、教頭9 ・事務局3
3	1月5日（水） 14:00～17:00	○ 各校の取組発表 ○ 学識経験者の指導助言のもと好事例選定 ○ 『平成23年度協働型学校評価ガイドライン』に掲載する事例集の作成	・学識経験者2 ・校長1、教頭9 ・事務局3
4	1月20日（木） 14:00～17:00	○ 『平成23年度協働型学校評価ガイドライン』に掲載する事例集の作成	・学識経験者2 ・教頭10 ・事務局3

② 協働型学校評価の拡大のための取組状況

ア 協働型学校評価に関する情報と資料提供：『仙台版・学校評価メールマガジン』発出

No.	発出期日	主な内容
1	4月20日	・「学校評価は学校の良し悪しを評価してもらうものだと思いませんか!？」 ・「三者協働で年度ごとに明確な目標を立て、PDCAサイクルによる改善活動を実施し、一步一步ステップアップしましょう」 ・「児童生徒の現状と課題を把握し、重点目標（案）を作成しましょう」
2	5月7日	・「学校評価を、わざわざ協働型で行う必要があるのかと思いませんか」 ・「重点目標は三者が願いを込め、協働して解決に取り組む当該年度の重要課題です」
3	9月7日	・「目標達成に向けた、学校・家庭・地域の三者協働による改善活動の実施をどのように進めていけばよいでしょう？」 ・「地域との協働を、どのようにとらえればよいでしょう？」
4	1月26日	「仙台版・学校評価」校長対象研修会で配布
5	1月28日	・「協働型学校評価をめぐる課題」「重点目標設定の際の留意事項」
6	3月4日	・『平成23年度協働型学校評価ガイドライン』の概要」

イ 仙台版・学校評価シンポジウムの開催

〔 趣旨 〕

学校・家庭・地域をつなぎ、子供たちのよりよい成長を支える協働型学校評価について、

学校関係者評価委員・学校支援地域本部関係者・PTA役員・教職員等の理解を深め、その推進を目的として開催。

〔 日時 〕平成22年11月29日（月）13：30～16：45

〔 会場 〕仙台市太白区文化センター・楽楽ホール

〔 参加者 〕

教育委員5名、市立学校教職員191名、学校関係者評価委員及びPTA役員258名、学校支援地域本部関係者16名、総計470名。

〔 ながれ 〕

	時 程	内 容
1	13:00	開場・受付
2	13:30	開会
3	13:40～14:10	○ 実践発表「協働型学校評価の実際」仙台市立東六番丁小学校長 渡部 力
4	14:15～15:05	○ 講演「仙台版・協働型学校評価に期待すること」千葉大学 天笠 茂 教授
5	15:15～16:30	○ パネルディスカッション 「学校・家庭・地域をつなぎ、子供たちのよりよい成長を支える協働型学校評価を推進するために」 ・パネリスト 千葉大学教育学部 教授 天笠 茂 氏 東六番丁小学校 校長 渡部 力 氏 仙台市PTA協議会 副会長 黒田 達也 氏 NPO法人せんたい杜の子ども劇場 代表 斎藤 純子 氏 仙台市教育局学校教育部長 菅野 茂 ・コーディネーター 仙台市教育局学校教育部教育指導課長 堀越 清治
6	16:45	閉会

ウ 仙台版・学校評価研修会の開催（年2回開催）

i 第1回研修会

〔 趣 旨 〕協働型学校評価の進め方の実際について理解を深める。

〔 日 時 〕平成22年5月25日（火）14：00～16：30

〔 会 場 〕仙台市役所職員研修所

〔 参加者 〕市立幼稚園長及び市立学校教頭・主幹教諭・教務主任、計187名。

〔 ながれ 〕

	時 程	内 容
1	13:30	開場・受付
2	14:00	開会
3	14:00～15:00	○ 講義「子供たちの成長を支える学校評価にするために」 講師 仙台市教育局学校教育部長 菅野 茂
4	15:10～15:50	○ 事例発表「学校・家庭・地域の願いが込められた重点目標の設定」 発表者 仙台市立八木山南小学校 校長 飯坂 新 氏
5	15:50～16:30	○ 中学校区情報交換 ・重点目標設定に関する進捗状況について ・重点目標案について

6	16:45	閉会
---	-------	----

ii 第2回研修会

〔趣旨〕協働型学校評価における重点目標の設定と表し方について理解を深める。

〔日時〕平成22年12月13日(月) 14:00~16:30

〔会場〕仙台市役所職員研修所

〔参加者〕市立幼稚園長及び市立学校教頭もしくは主幹教諭、教務主任、計186名。

〔ながれ〕

	時程	内容
1	13:30	開場・受付
2	14:00	開会
3	14:00~15:00	○ 講義「協働型学校評価における重点目標の設定と表現の考え方」 講師 仙台市教育局学校教育部長 菅野 茂
3	15:00~15:15	○ 演習の進め方に関する説明
4	15:30~16:40	○ 中学校区グループによる演習「自校の現状と課題を踏まえた重点目標案の設定」
6	16:45	閉会

エ 「仙台版・学校評価」校長研修会の開催

〔趣旨〕協働型学校評価実施上の疑問を解決する。

〔日時〕平成23年1月26日(水) 15:00~16:30
平成23年1月28日(金) 10:30~12:00

〔会場〕仙台市教育センター

〔参加者〕1月26日(水):市立中学校長・中等教育学校長対象、計66名。

1月28日(金):市立小学校長対象 計125名。

〔内容〕説明「協働型学校評価の考え方と進め方」 学校教育部 菅野 茂 部長

2. 実践研究の成果

(1) 協働型学校評価の構築と充実に向けた取組の成果

協働型学校評価実地検証に関するアンケート結果(実地検証校9校対象)

① 実地検証と学校運営改善の関係

○ すべての実地検証校が「実地検証は学校運営改善に役立った」と回答。

	質問内容	回答数
ア	非常に役に立つ	3
イ	一定程度役に立つ	6
ウ	どちらともいえない	0
エ	あまり役に立たない	0
オ	まったく役に立たない	0

② 実地検証で役立った点(複数回答)

○ すべての実地検証校が「実地検証で学校運営改善策の助言や示唆が得られた」「実地検証で自己評価・学校関係者評価の検証ができた」と回答。

	質問内容	回答数
ア	学校の課題とそれに対する改善方針が明確になった	4
イ	学校運営改善策の助言や示唆が得られた	9
ウ	教職員の意識改革・意欲の向上につながった	4
エ	学校の教育活動が活性化した	0
オ	一定の基準に照らした学校の教育の客観的状況が明確になった	2
カ	学校運営全般の点検ができた	2
キ	自己評価・学校関係者評価の検証ができた	9
ク	設置者の支援の必要性の状況が明確になった	1
ケ	その他	0

③ 提示された実地検証報告書に対する感想

- 6校の実地検証校が「学校のよい点や努力について記述されていた」「改善のための提案や専門的助言が示されていた」と回答。

	質問内容	あてはまる	わりとあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
ア	学校のよい点や努力について記述されていた。	6	2	1	0	0
イ	学校が有する課題について指摘されていた。	4	4	1	0	0
ウ	コメントの根拠となる客観的事実が明確に述べられていた。	5	1	3	0	0
エ	課題の背景等について専門的視点からの分析が述べられていた。	2	5	1	1	0
オ	改善のための提案や専門的助言が示されていた。	6	2	1	0	0
カ	内容は納得のできるものであった。	5	4	0	0	0

④ 実地検証にかかる負担全体と得られた成果の関係

- 7校の実地検証校が「実地検証で得られた成果は大きい」と回答。

	内容	回答数
ア	かかる負担は小さく、得られた成果は大きい。	4
イ	かかる負担は大きいとも小さいともいえず、得られた成果は大きい。	3
ウ	かかる負担は大きいとも小さいともいえず、得られた成果は大きいとも小さいともいえない。	2

⑤ 実地検証全体を通じて、よかった点あるいは負担に感じた点（自由記述）

- 8校の実地検証校から記述あり。「今後の取組に見通しをもつことができた」「これまでの取組に自信をもてた」「負担感はなかった」などが共通した内容であった。

	記述内容
1	試行錯誤の取組、段取りや進捗状況への客観的評価がまったく得られないなか、委員の皆様へに一定の評価をいただいたことで、これまでの取組に対する信頼と自信を改めて得ることができた。また、次の改善活動や次年度の方向性の示唆をいただき、今後の取組への見通しと自信をもつことができた。さらに、学校経営のポイント、学校の役割、連携の様々な在り方などについて、専門の立場から幅広くご指導いただき、多くの副産物も頂戴できた意義も大きい。実地検証は、全く初めての経験であり、見通しがない中での作業への若干の不安感があったものの、特に負担とを感じるものはなかった。(校長)
2	重点目標達成のために教育活動を展開しているが、設定した目標の的確性や、その活動自体が果たしてうまく行われているかが不安なところもあった。しかし、実地検証を通して、分かり易く整理していただき、今後の見通しや、やるべき方法や展開の仕方が見えてきて、大変よかった。(校長)
3	現在の取組で本当によいのかどうか不安に思いながら進めていたが、実地検証により確認することができたのでよかった。(教務主任)
4	児童・職員・保護者等との接触を図り、学校の様子を直接観ていただき、率直なご意見をいただいたことは、学校運営の客観性をより高めることになり大変ありがたかった。校長としては、委員の皆様との話し合いの時間を十分にとっていただき、説明させていただくとともに、委員の皆様から、重点目標の在り方や取組の方策等についてご助言をいただき、今後の見通しをもつことができ、とても有意義であった。(校長)
5	学校で実施している内容の検証に役立つと思った。実践への後押しになると感じた。負担感もさほど感じなかった。
6	協働型学校評価を推進するに当たり、手探りのことが多いなか、指導やアドバイスをもらえる機会を提供していただいたことはありがたいことであった。準備する資料等も、日ごろ、改善活動を実践していれば必要なものとしてそろうものであり、新たに作成する必要がないこともありがたかった。学校職員以外の方々からのインタビューは、素晴らしい試みであると思った。(教頭)
7	本校が、重点目標の位置付けについて、よく分からない状況で取り組み、不十分な結果となっていることが分かった。協働型学校評価の趣旨の理解が不十分であった。(校長)
8	委員の方々に、まる一日、児童の活動を通し、学校運営状況をご覧いただくという機会は、管理職にとっても教職員にとっても、自分たちの実践について何らかの評価や助言がいただけるという機会がもて、大変有効だった。地域の方々・PTA代表・教職員の話にも熱心に耳を傾けていただき、学校運営を総合的に見ていただく、よいチャンスであった。教職員にとっては、日常の実践と子供の姿を熱心に見ていただいたことにより、より深くご理解いただいたという満足感があつた。訪問していただいたことを全職員喜んでいた。

(2) 協働型学校評価の拡大に向けた取組の成果

仙台版・学校評価シンポジウム終了後のアンケート結果

① 協働型学校評価についての理解の深まり

- 参加した教職員の99%が「深まった」と回答。参加したPTA役員・学校関係者評価委員

学校支援地域本部スーパーバイザーの95%が「深まった」と回答。

	大変深まった	深まった	あまり深められず	深められず
教職員	26%	73%	1%	0
PTA役員、評価委員、スーパー	25%	70%	5%	0

※ 評価委員：学校関係者評価委員、スーパー：学校支援地域本部スーパーバイザー

仙台版・学校評価研修会終了後のアンケート結果（教頭、主幹教諭、教務主任対象）

① 協働型学校評価についての理解の深まり

○ 参加者の98%が「深まった」と回答。

	大変深まった	深まった	あまり深められず	深められず
5月	36%	62%	2%	0
12月	32%	66%	2%	0

② 協働型学校評価に取り組むに当たり行政機関に期待すること

○ 参加者が行政機関に期待することのトップは「資料・情報提供」。

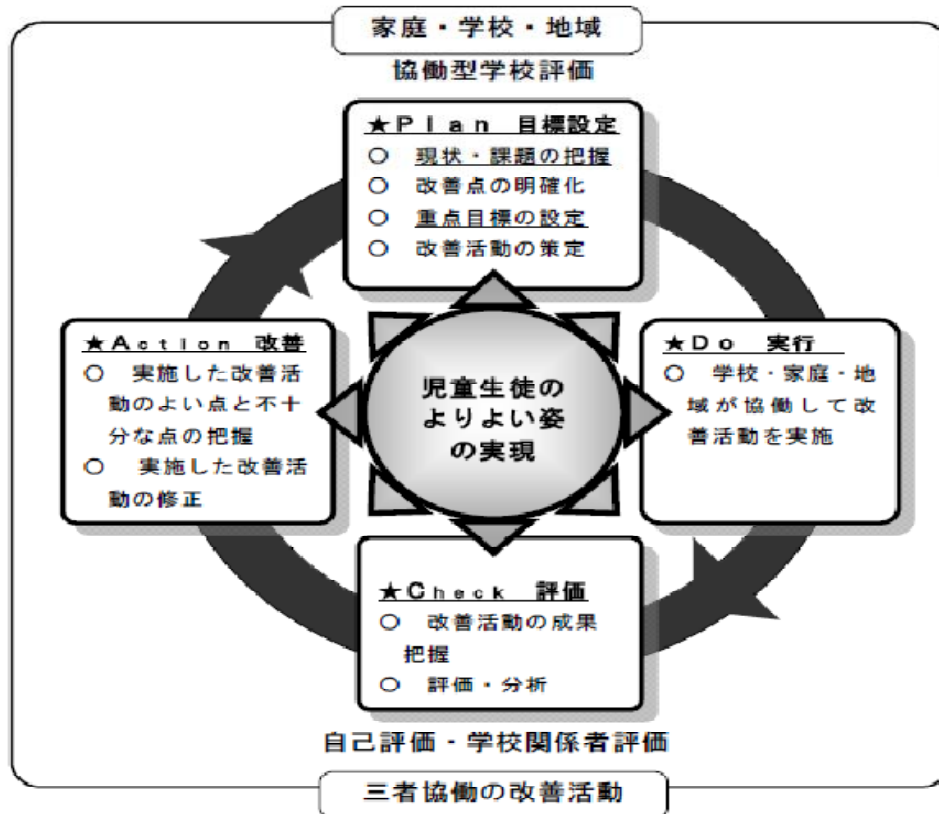
○ 5月と12月を比較すると、「研修会実施」を要望する割合が増加。

	資料・情報提供	研修会実施	学校訪問による指導
5月	73%	17%	10%
12月	60%	30%	10%

3. 今後の取組予定

本市では、「地域とともに歩む学校」を学校経営の根幹と位置付け、すべての教育活動の基盤としている。学校・家庭・地域が、協働型学校評価を活用し、当事者としての責任を負い、役割を分担、協働して児童生徒をよりよく育成する改善活動を行えるように、市教委は協働型学校評価充実のための支援・指導を行う。

市立学校の協働型学校評価の充実



市立学校に対する設置者の支援・指導

- 設置者が委嘱した学識経験者や校長経験者、PTAや青少年団体など学校と地域の連携に関する知見を有する方々が学校を訪問し、協働型学校評価の運用について実地検証を行い、必要に応じて助言を行い、訪問校の協働型学校評価の充実を図る。
- 全市立学校を対象として実施する教育課程ヒアリングや教育課程訪問を通じて協働型学校評価の進捗状況等を確認し、各校に対して協働型学校評価の考え方や実施手順の周知徹底を図る。
- 教育課程ヒアリングや教育課程訪問、実地検証等を通して収集した好事例を市立学校へ提示し、各校の協働型学校評価の推進に資する。
- 協働型学校評価の取組について中学校区における異校種間の情報交換会を実施し、9年間を通じた児童生徒のよりよい育ちのための異校種間の連携と協働の基盤づくりを行う。
- 各学校の学校関係者評価委員及び教職員が実践交流を行う研修会を実施し、各学校の協働型学校評価の充実につながる知見を提示する。

○児童生徒のよりよい姿を実現するための改善活動「協働型学校評価」

I 協働型学校評価を行うに当たっての考え方

1 仙台版・学校評価の概要

- (1) 学校評価の本質
- (2) 協働型学校評価の必要性
- (3) 各校における協働型学校評価の実施形態
- (4) 協働型学校評価のスケジュール

2 協働型学校評価の実施手順

- (1) ステップ1：児童生徒の現状と課題の把握
- (2) ステップ2：児童生徒の現状と課題の共有
- (3) ステップ3：重点目標の設定
- (4) ステップ4：重点目標達成に向けた三者協働による改善活動の決定と実施

- (5) ステップ5：成果把握と次のサイクルに向けた話し合い

※ トピックス1「学校評価を成果につなげるための三つの秘訣」

※ トピックス2「重点目標設定のための個人用ワークシート」

3 自己評価を行うに当たっての留意点

- (1) 外部アンケート
 - ※ トピックス3「外部アンケートの内容を重点目標に焦点化」
- (2) 市立学校が共通して取り上げる基礎的評価項目と指標の扱い
 - ※ トピックス4「学校評価支援システムウェブサイト」

4 学校関係者評価を行うに当たっての考え方

- (1) 学校関係者評価の意図と学校関係者評価委員会の役割
 - ※ トピックス5「実地検証委員コメント：学校関係者評価委員の方々に期待すること」
- (2) 学校が留意すべき点

II 協働型学校評価の実際

1 各ステップの取組例

- (1) ステップ1：児童生徒の現状と課題の把握
 - ※ トピックス6「全教職員で課題の洗い出し」
- (2) ステップ2：児童生徒の現状と課題の三者による共有
- (3) ステップ3：重点目標の設定
 - ※ トピックス7「実地検証委員コメント：重点目標の設定」
- (4) ステップ4：目標達成に向けた、三者協働による改善活動の検討と実施
- (5) ステップ5：成果把握と次のサイクルに向けた話し合い

2 三者協働の取組を促進するための情報発信の取組例

※ トピックス8「実地検証委員コメント：学校からの情報発信」

3 三者協働の取組を促進するための学校関係者評価委員会活用の取組例

※ トピックス9「実地検証委員コメント：学校関係者評価委員会の活用」

III 設置者への報告〔学校評価の業績の報告〕



- 1 提出資料
- 2 提出期限
- 3 提出先及び提出方法
- 4 提出資料の様式と記載内容

【資料】

- 様式1「学校評価の実施状況報告」
- 様式2「学校評価の業績の報告」
- 「評価項目・指標等の設定」